

平成31年度学校評価表

※令和2年度第1回学校評価委員結果

※評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1

自己点検・自己評価表		評価	ご意見等
評価項目			
1 教育理念・目的・育成人材像			
1-1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか		3.8	・東京教育専門学校の強みや特色をしっかりと出していくことが求められる。 ・日本の幼児教育・保育の黎明期に活躍された創立者和田實の思想を根幹とし、明確なディプロマポリシーが策定されている事が伺える。和田實研究会や学生主体の体育祭、保育祭など特色のある教育活動への取り組みが見られます。他方、より具体的な将来構想の内容、実現可能な体制を整えることが課題と考えられます。
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界などの人材ニーズに適合しているか		3.5	
1-1-3 理念などの達成に向け特色のある教育活動に取り組んでいるか		3.3	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか		3.3	
2 学校運営			
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか		3.0	・経営主体である法人の中長期計画がないまま学校運営、または事業計画の策定はできないものと思われる。早急な改善が必要であろう。 ・意思決定システムについて、各種委員会に権限を委譲する案が示されているが、最終権限は校長の決済にすること。 ・課題が多くあるようである。校長先生と学園の連携が重要であると考えられる。 ・データの共有化がやや遅れぎみ。 ・学校に関しては、理事会、評議委員会との連携、意思決定システムの整備などが課題としてあげられています。今後、教育・研究・財務等に関する学校の活動についてデータを収集・分析し（いわゆるIR活動の充実）、より効果的な意思決定ができるような体制を整備することを求めます。
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか		2.5	
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか		2.8	
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか		2.7	
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか		2.8	
2-6-1 意思決定システムを整備しているか		2.8	
2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っている		2.8	

3 教育活動		
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3.7	・教職員の資質向上の為には、それぞれの専門学会への所属と研究ノルマを課すことも必要ではないか。また、理論だけで無く、自ら現場に出かけ、保育現場から学ぼうとす姿勢も重要と思う。 ・学びの特長より色濃くしていくことをお願いしたい。 ・学生が在学中に1つでも多くの資格が取得出来ると良い。 ・教育活動の項目に関して、キャリア教育、学生ニーズに応じた多様な資格を取得できることなど、特に評価できる点と考えます。一方で、幼児教育・保育の領域は、保育制度の変化や保育者に求められるニーズの多様化などにもとめない、養成校の教育内容・方法にも新しい意識・技術が求められています。教員の研究能力や教育能力の開発を組織的に行える取り組み（いわゆるFD活動）が、継続して行われることを望みます。
3-8-2 学科ごとの修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3.7	
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3.3	
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3.5	
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3.7	
3-9-4 授業評価を実施しているか	3.5	
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3.7	
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3.7	
3-11-1 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置づけられているか	3.8	
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	4.0	
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4.0	
3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	3.3	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	4.0	

4 学修成果		
4-13-1 就職率の向上が図られているか	3.8	・就職率が100%であることは良いが、質の高い保育士、幼稚園教諭の資格を与えられているかは別に考え、分析が必要と思われる。 ・高い就職率、就職、資格・免許取得率を維持していることが伺えます。
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	3.8	
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているのか	3.3	
5 学生支援		
5-16-1 就職など進路に関する支援組織体制を整備しているか。	3.8	・クラス担任による個人面談にて、就職指導や学生相談への対応を行われています。加えて保育士キャリアアップ研修や免許状更新講習の開催など卒業生への支援、社会のニーズに応じた実践として評価できます。一方で、退学率が減少したといっても一定数が存在すること、学生の主体的な活動であるサークル活動の中止など、課題となる点も感じられました。
5-17-1 退学率の低減が図られているか	3.5	
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3.8	
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3.7	
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3.3	
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3.8	
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3.7	
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3.2	
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3.5	
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3.7	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3.7	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3.7	

6 教育環境		
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具などを整備しているか	3.8	・防災力は保育者に必須である。しっかり力をつけて現場に来てほしい。 ・教育環境に関して、特段問題となる点はないと考えられます。
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修などの実施体制を整備しているか	3.7	
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3.5	
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3.7	
7 学生の募集と受入れ		
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	3.7	・受験者の減少の影響から選考レベルの低下にならないよう配慮願いたい。 ・時代の流れにより多様化している学生に選ばれる学校であることが望ましい。 ・少子化が進んでいるため、定員割れは仕方ない部分がある。 ・定員の充足がまず求められます。自己評価に記載されている「高等学校や広報業者等との連携を高めることが必要」と考えられます。
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	2.8	
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3.0	
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3.3	
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3.3	
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取り扱いを行っているか	3.8	

8 財務		
8-28-1 学校及び法人運営の中期的な財務基盤は安定しているか	2.5	・幼稚園は10年間の定員割れ、専門学校は数年の定員割れが財務に影響していることはわかるが、法人として問題点を整理し、対応策を理事長、園長、校長自らが促進させる必要があると思われる。 またどの程度の定員割れかにもよるが、実態に合わせ幼稚園の定員変更をし、職員減も検討が必要ではないか。 ・中長期の計画を策定していることが必要かと思う。 ・課題として中長期計画を示し、財務基盤の安定を図る組織的な取り組みが必要であることが伺えます。
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	2.8	
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	2.5	
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3.3	
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3.8	
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	3.5	
9 法令等の遵守		
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4.0	・基本的な法令を遵守し、適正に学校運営していることが伺えます。自己評価結果、学校関係者評価結果の速やかな公表が今後のぞまれます。
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3.8	
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3.5	
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3.3	
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3.8	
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3.3	
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3.8	

1 0 社会貢献・地域貢献		
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.0	・保育現場はグローバル化している。コミュニケーション力を身につけておくが良い。 ・学生のボランティア活動を奨励し社会貢献を担っていることが伺えます。人的資源としての教員の社会貢献、地域貢献についてより具体的な記載が必要と考えます。
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3.0	
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3.5	

学校関係者評価の委員			
名前	所属	任期	種別
石井 邦男	幼稚園園長	2020 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日	養成教育に関わる実習施設関係者
高井 良子	保育園園長	2020 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日	本校卒業生代表
田中 朋子	卒業生保護者	2020 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日	在学生又は卒業生の保護者代表
小原 敏郎	大学教授	2020 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日	教育に関し知見を有する者
鎌田 和成	株式会社社長	2020 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日	地域住民代表
若山 剛	保育園園長	2020 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日	校長が必要と認めた者